

区 分	スペック・ 試 行	担当課	砂防課
-----	------------------	-----	-----

事業区分	砂防	取組項目	砂防堰堤における間伐材残置型枠の使用
現状・問題点・背景			
砂防施設の設置箇所は、比較的自然環境に恵まれた場所が多い。一方、人々の意識や価値観は、モノから心の豊かさ、自然との調和などへと大きく変化しており、災害から県民の生命と暮らしを守る砂防事業にあっても、その安全性の確保に加え、各溪流が有する魅力や地域特性を活かしつつ、生態系や景観などにも十分配慮して整備を進めていく必要がある。 また、本県の森林面積は、県土の71%を占め、そのうち民有林の62%が人工林となっている。「水源かん養能力が劣る」として、スギ・ヒノキなどの人工林が批判されているが、針葉樹人工林自体が悪いのではなく、「その管理手入れが不適切であることが問題(針葉樹人工林の約3割が放置林)」とも言われており、流域全体で水源かん養機能の高い森林を造成するため、強度な間伐等の森林整備が不可欠である。			
取組項目の内容			
砂防堰堤の施工にあたり、最下流の砂防堰堤については、背面のみ、最下流以外の砂防堰堤については、前面・背面ともに残置型枠使用を標準とする。			
取組項目の効果			
脱型作業や足場の設置が不要な残置型枠の使用により、材料費は高額となる一方、労務費は削減できることから、工期短縮・省力化につながり、生産性向上に寄与することができる。 更には、間伐材の流通の活性化を図り、間伐の実施促進、放置林対策としての森林管理の推進を側面から支援する。また、木材を使用することにより、コンクリート構造物より人にやさしい、自然景観になじんだ構造物とすることができる。			
イメージ（コンセプト）			
			